

# 2011年8月期第1四半期業績 及び業績見通し

**大西 秀亜**

---

株式会社ファーストリテイリング  
グループ執行役員CFO

1

2011年8月期第1四半期業績、及び  
通期の業績見通しについてご説明します。

I. 第1四半期決算概要	P3	～	P16
II. 2011年8月期業績予想	P17	～	P21
III. ご参考資料	P22	～	P26

**【資料文中のグループ事業の表示について】**

各グループ事業の構成は、以下のとおりです。

**(2011年8月期以降)**

国内ユニクロ事業： 株式会社ユニクロ(靴事業含む)の数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、ジューユール事業、キャビン事業が含まれています。

**(2010年8月期まで)**

国内ユニクロ事業： 日本で展開するユニクロ事業の数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 海外で展開するユニクロ事業が含まれています。

国内関連事業： ジューユール事業、靴事業、キャビン事業が含まれています。

グローバルブランド事業： セオリー事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業が含まれています。

**【将来予測に関するご注意】**

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

## 【連結】2011年8月期 第1四半期実績

売上高 : 2,509億円 (前年同期比 ▲ 4.7%)

営業利益: 498億円 (前年同期比 ▲ 18.4%)

	2010年8月期	2011年8月期	2011年8月期	単位: 億円
	第1四半期実績	実績	第1四半期 前年同期比	
売上高 (売上比)	2,634 100.0%	2,509 100.0%	▲ 4.7%	
売上総利益 (売上比)	1,380 52.4%	1,334 53.2%	▲ 3.4% + 0.8p	
販管費 (売上比)	770 29.2%	835 33.3%	+ 8.5% + 4.1p	
営業利益 (売上比)	610 23.2%	498 19.9%	▲ 18.4% ▲ 3.3p	
経常利益 (売上比)	586 22.3%	481 19.2%	▲ 17.9% ▲ 3.1p	
特別損益 (売上比)	▲ 1 -	▲ 106 -	- -	
純利益 (売上比)	348 13.2%	227 9.0%	▲ 34.9% ▲ 4.2p	

3

2011年8月期 第1四半期連結業績についてご説明します。

売上高は2,509億円、前年同期比4.7%減、  
営業利益は498億円、前年同期比18.4%減、  
経常利益は481億円、前年同期比17.9%減、  
減収減益の結果となりました。

次のスライドで要因をご説明します。

## 【連結】第1四半期 減収減益の要因

**売上高 2,509億円**（前年同期比 ▲4.7%）

- 国内ユニクロ事業 ▲200億円
- 海外ユニクロ事業 +60億円
- グローバルブランド事業 +13億円

**売上総利益率 53.2%**（前年同期比 +0.8p）

- 国内ユニクロでの上昇 +0.9p（うち、会計処理変更の影響+2.7p）

**売上高販管費比率 33.3%**（前年同期比 +4.1p）

- 国内ユニクロ事業での上昇 +5.2p（うち、会計処理変更の影響+2.7p）
- 販管費比率の高い海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業の拡大

**営業利益率 19.9%**（前年同期比 ▲3.3p）

**経常利益率 19.2%**（前年同期比 ▲3.1p）

- 円高による為替差損の発生 ▲16億円

4

まず売上高ですが2,509億円、前年同期比124億円、4.7%の減収となりました。

減収の要因は、国内ユニクロ事業で200億円の減収となったことによります。一方で、海外ユニクロ事業では60億円の増収、グローバルブランド事業では13億円の増収となっております。

売上総利益率は53.2%と、前年同期比0.8ポイント改善いたしました。これは、国内ユニクロ事業で0.9ポイント上昇したことが主な要因となっております。

販管費は前年同期比で65億円増加し、販管費比率は4.1ポイント上昇いたしました。

これは、国内ユニクロ事業で販管費比率が5.2ポイント上昇したことが主な要因です。

また、比較的販管費比率が高い海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業の構成比が高まったことも販管費比率上昇の要因です。

これらの結果、営業利益は498億円、前年同期比18.4%減となり、営業利益率は19.9%と同3.3ポイント低下いたしました。

また、経常利益につきましては481億円、前年同期比17.9%減、経常利益率は19.2%と、同3.1ポイント低下いたしました。

なお、営業外損失として、円高に伴う為替差損が16億円発生しております。これは株式会社ユニクロが海外ユニクロ事業向けに行っている立替金にかかわるものが主なものです。

## 第1四半期 グループ事業別実績

単位：億円

		2010年8月期	2011年8月期	第1四半期
		第1四半期実績	実績	前年同期比
国内ユニクロ事業	売上高	2,097	1,897	▲9.6%
	営業損益	555	420	▲24.4%
	(売上比)	26.5%	22.1%	▲4.4p
海外ユニクロ事業	売上高	207	268	+29.3%
	営業損益	31	48	+52.5%
	(売上比)	15.3%	18.0%	+2.7p
グローバルブランド事業	売上高	324	337	+4.1%
	営業損益	35	39	+13.4%
	(売上比)	10.8%	11.8%	+1.0p

※ 2010年8月期実績も新カテゴリーに組替した数値を表示しております。

※ 各グループ事業の構成

国内ユニクロ事業： 株式会社ユニクロ(靴事業含む)の数値が表示されています。

海外ユニクロ事業： 海外で展開しているユニクロ事業

グローバルブランド事業：セオリー事業、コントワ・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、ジュー事業、キャビン事業

こちらのスライドでは、各グループ事業別の売上高、営業利益を示しております。

2011年8月期より国内ユニクロ事業には靴事業が含まれ、グローバルブランド事業には、ジュー事業およびキャビン事業が含まれております。

なお、2010年8月期の数値についても、新カテゴリーに組替えた数字を表示しております。

## 1Q 減収減益

単位：億円

	2010年8月期	2011年8月期	第1四半期
	第1四半期実績	実績	前年同期比
売上高 (売上比)	2,097 100.0%	1,897 100.0%	▲9.6%
売上総利益 (売上比)	1,047 49.9%	964 50.8%	▲7.9% +0.9p
販管費 (売上比)	492 23.5%	544 28.7%	+10.6% +5.2p
営業利益 (売上比)	555 26.5%	420 22.1%	▲24.4% ▲4.4p

※ 2010年8月期実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

まず国内ユニクロ事業ですが、第1四半期の売上高は1,897億円、前年同期比9.6%減、営業利益は420億円、同24.4%減と、減収減益の結果となりました。

ただし、10月に発表いたしました期初予想に比べて売上高は約50億円上回ることができ、粗利益率も若干上ぶれております。また販管費は、期初予想比で20億円弱削減することができました。この結果、営業利益は期初予想比で約50億円上回っております。

項目ごとにつきましては、次のスライドでご説明させていただきます。

## 【国内ユニクロ事業】売上高の状況

**1Q 売上高 1,897億円 (前年同期比 ▲9.6%)**

- ユニクロ直営店 2010年11月末 803店(FC店舗20店除く)  
前年同期末比 +31店舗
- 既存店売上高 前年比 ▲12.3% (客数 ▲6.6%、客単価 ▲6.0%)
  - ・客数減の要因 9月 残暑の影響  
11月 過去2年間の売上好調による反動
  - ・客単価減の要因 9月 秋物商品の値引が増加した影響  
11月 ヒートテックの限定販売が昨年比で増加した影響

直営既存店 前年比	2011年8月期				
	9月	10月	11月	9-11月計	12月
売上高	▲24.7%	▲1.1%	▲14.5%	▲12.3%	▲15.5%
客数	▲14.9%	▲0.2%	▲7.0%	▲6.6%	▲10.0%
客単価	▲11.4%	▲0.9%	▲8.1%	▲6.0%	▲6.1%

7

国内ユニクロ事業の売上高は、店舗数が前年同期末比31店舗増加いたしましたが、既存店売上高が12.3%減となったことにより、9.6%の減収となりました。

既存店売上高の二桁減収の要因としては、残暑の影響、前年の第1四半期の既存店増収率が20.8%増と高かったことによる反動により客数が減少したことがあげられます。

また、客単価も前年比で減少しておりますが、要因としては9月の残暑による秋物販売の苦戦により、秋物商品の値引を増やした影響、また、11月にはヒートテックの限定販売が前年比で増加したことによる影響があげられます。

1Q 売上総利益率 50.8% (前年同期比 +0.9p)  
(旧会計処理ベース※ 48.1% : 前年同期比 ▲1.8p)

○ 前年同期比で低下した理由

- ・ 秋物の処分値引が増加した影響  
残暑により9月の秋物販売が苦戦、在庫処分を進める
- ・ ヒートテックの限定販売増加の影響  
国内販売数量を増加(昨年4,700万点⇒今年6,500万点)  
昨年は欠品により計画通り実施できなかった限定販売を  
今年は計画通り実施

○ 期初予想比で上ぶれた理由

- ・ ウルトラライトダウン、フリースの販売好調

※ 原価算入していた商品倉庫～店舗間の運送費及び倉庫料を2011年8月期より販管費算入へ変更

8

次に売上総利益率ですが、旧会計処理ベースで前年同期比1.8ポイント低下しております。しかし、これは計画を若干上回る水準となっております。

粗利益率が前年同期比で低下した主な要因としては、まず秋物の処分値引が増加したことがあげられます。

今年は残暑により、秋物販売の動きが鈍かったことから、秋物商品の在庫処分を進めました。

また、ヒートテックの限定販売が前年同期に比べて増えていることも粗利益率低下の要因としてあげられます。

ヒートテックの国内での販売予定数は、昨年の4,700万点から今年は6,500万点へと増加させたことにより、昨年は欠品のため計画通り実施できなかった限定販売を、今年は計画通り実施することが出来ました。

粗利益率が期初予想から上ぶれた理由は、11月においてウルトラライトダウン、フリースなどの売上が好調だったことによります。

## 【国内ユニクロ事業】販管費

**1Q 売上高販管費比率 28.7% (前年同期比 +5.2p)**  
**(旧会計処理ベース※ 26.0% : 前年同期比 +2.5p)**

○ 対売上高比率は上昇：前年の高効率の反動

- ・ 人件費比率 前年同期比 +0.5ポイント
- ・ 広告宣伝費比率 同 +0.6ポイント
- ・ 賃借料比率 同 +0.7ポイント

○ 期初計画比：20億円弱の削減

- ・ 店舗人件費、広告宣伝費などを削減

※ 原価算入していた商品倉庫～店舗間の運送費及び倉庫料を2011年8月期より販管費算入へ変更

売上高に対する販管費比率は、旧会計処理ベースでは前年同期比2.5ポイントの上昇となっております。

前年の第1四半期の既存店売上高が20.8%増と極めて高い水準となったことから経費効率が大幅に改善したのに対し、今年の経費比率は、人件費比率、広告宣伝費比率、賃借料率など全ての項目で上昇いたしました。しかし、販管費比率の水準については旧会計処理ベースでは通年で30%以下を予想しており、この第1四半期でも適正水準にあると考えております。

なお、期初から経費削減活動に取り組んでおり、この第1四半期では期初予想に比べて経費を20億円弱削減をすることができました。

削減の主な内訳としては、店舗人件費、広告宣伝費などです。

### 順調に拡大、営業利益は計画通り5割増益 アジア：アジア地区全体で大幅な増収増益を達成

(アジア 店舗数 2010/8末 118店舗 ⇒ 2010/11末 129店舗)

- 1Q:11店舗の出店(中国 +5、韓国 +4、台湾 +1、マレーシア+1)
- 特に中国・香港、韓国の増益が寄与
- 10月7日に台湾1号店をオープン、予想を大幅に超える売上
- 11月4日にマレーシア1号店をオープン、売上は好調

		単位: 億円		
		2010年8月期	2011年8月期	第1四半期
		第1四半期実績	実績	前年同期比
海外ユニクロ事業	売上高	207	268	+29.3%
	営業損益	31	48	+52.5%
	(売上比)	15.3%	18.0%	+2.7p

10

次に海外ユニクロ事業ですが、売上高は268億円と前年同期比29.3%増、営業利益は48億円と同52.5%増の大幅な増収増益を達成いたしました。なお、売上高、営業利益ともにほぼ計画通りとなっております。

まずアジア地区では第1四半期の3ヶ月間で11店舗出店し、既存店売上高も好調に推移したことから、大幅な増収増益を達成することができました。

特に業績が好調なのは、中国・香港、韓国です。シンガポールについても利益率の改善が進んでおり、増益となっております。

なお、10月7日に台湾に1号店をオープンいたしました。オープン前に約2,500名のお客様が並ぶなど大きな反響を持って受け入れられており、予想を大幅に超える売上が続いております。

同じく11月4日にマレーシア1号店をオープン、オープン初日に約2,000名のお客様が並ぶなど売上は好調に推移しております。

- 2011年8月期末アジア地区での店舗数は160店舗へ拡大
- 百貨店立地の大型店が好調、百貨店全体への集客にも貢献
- 売上高は700億円を超える見込み



海外ユニクロ事業の2011年8月期末のアジア地区における店舗数は前期末に比べて42店舗増え、160店舗に達する見込みです。

特に、百貨店立地の大型店が成功しています。

例えば統一阪急百貨店にオープンした台湾1号店や、韓国ではLOTTE百貨店に出店している店舗などが好調です。

ユニクロは中核テナントとして百貨店全体への集客にも大きく貢献していることから、今後も百貨店などへの出店を進めます。

また、アジア地区での売上高は700億円を越えることを予想しております。

今年秋にはタイ バンコク市に1号店をオープンする予定です。

来期以降も、アジア地区での出店を加速し、今後のユニクロの成長ドライバーとなることが見込まれております。

**欧米： 計画通り増収増益を達成**  
(NY5番街グローバル旗艦店の家賃負担除く)  
(欧米 店舗数 2010/8末 18店舗 ⇒ 2010/11末 19店舗)

- 「+J」秋冬コレクションは好評。NYグローバル旗艦店では発売開始日に過去最高の単日売上高を記録
- パリのグローバル旗艦店の売上好調が続く、収益も改善
- 英国の既存店増収は続く
- ロシアで2号店をオープン。2号店のオープン前コストの影響で1Qでは赤字

欧米地区では、NY5番街に新規出店するグローバル旗艦店の家賃負担を除いたベースで計画通り増収増益を達成いたしました。

「+J」秋冬コレクションは好評で、発売開始日の10月15日にはニューヨークソーホーのグローバル旗艦店で過去最高の単日売上高を記録いたしました。

一昨年10月にオープンしたパリのグローバル旗艦店の売上も好調を維持しており、収益も改善しております。

英国では既存店の増収が続いております。

ロシアでは11月26日に2号店をオープンいたしました。この第1四半期では、2号店のオープン前コストの影響などがあり、赤字となっております。

### セオリー事業の好調により計画達成

#### セオリー事業 日米ともに好調、米国では計画比上ぶれ

米国：既存店売上高は二桁増収、計画比上ぶれで大幅増益

日本：既存店売上高の増収続く、計画通りの増益

#### コントワー・デ・コトニエ事業 計画比下ぶれ

既存店売上高が減収となったことで計画未達、減益

#### プリンセス タム・タム事業 ほぼ計画通りの業績

卸売事業縮小に伴い減収、利益はほぼ計画通り、前年並み

#### ジュー事業 ほぼ計画通りの業績

9月は残暑の影響で苦戦、1Qでは計画通り増収、営業利益は前年並み

		単位：億円		
		2010年8月期	2011年8月期	第1四半期
		第1四半期実績	実績	前年同期比
グローバルブランド事業	売上高	324	337	+4.1%
	営業損益	35	39	+13.4%
	(売上比)	10.8%	11.8%	+1.0p

※ 2010年8月期実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

13

グローバルブランド事業の第1四半期の売上高は337億円と4.1%の増収、営業利益は39億円、13.4%の増益と、計画を達成いたしました。

セオリー事業は日米ともに好調な売上と増益が続いております。特に米国のセオリー事業は、既存店売上高の二桁増収が続いていることで、計画比で上ぶれし大幅増益となっております。特に、この2011年春夏コレクションから展開を開始するオリヴィエ・ティスケンス氏デザインによるカプセルコレクションは好評を博しております。2011年秋冬からはティスケンス氏がアーティスティックディレクターとしてセオリー全体のデザインを担当することが決まっており、VOGUE誌でも取り上げられるなど期待が高まっております。

なお、日本のセオリー事業は、既存店売上高の増収が続いており、ほぼ計画通りの増益となっております。

コントワー・デ・コトニエ事業の第1四半期は、既存店売上高の減収により、売上、利益ともに計画未達、減益となっております。

プリンセス タム・タム事業は卸売事業の縮小により減収となっておりますが、利益はほぼ計画通り、前年並みとなっております。

ジュー事業は、9月の売上高が残暑の影響で苦戦いたしました。10月後半からの回復により第1四半期ではほぼ計画通りの増収となっております。10月23日にオープンした心齋橋旗艦店の開店コストの影響で、営業利益は計画通り、ほぼ前年並みとなっております。

**特別損失 ▲107億円****会計処理の変更に伴う特別損失 合計 96億円****物流費一括償却 ▲26億円**

物流費・商品倉庫料の計上基準を統一したことに伴い、2010年8月末時点の在庫に含まれる物流費・商品倉庫料の相当額を一括償却

**固定資産の減価償却費一括償却 ▲40億円**

固定資産の減価償却費計上基準をグループで統一したことに伴い、過去分を一括償却

**資産除去債務過去分一括償却 ▲29億円**

資産除去債務会計基準の適用に伴い、過去分を一括償却

**その他の特別損失****事業整理損失引当金繰入額 ▲ 8億円**

靴販売専門店の閉店に伴うもの

次に第1四半期に計上した特別損失についてご説明します。

会計処理の変更に伴う特別損失として物流費の一括償却で26億円、固定資産の減価償却費一括償却で40億円、資産除去債務過去分の一括償却で29億円それぞれ計上しております。

結果、会計処理の変更に伴う特別損失は併せて96億円計上しております。

このほか、靴の専門店90店舗を今期中をメドに閉店することを決定したことに伴い、事業整理損失引当金繰入額を8億円計上しております。

今後の靴事業については、株式会社ユニクロの事業として、ユニクロ店舗の一部において靴の販売を継続する予定です。

単位：億円

	2010年8月末	2010年11月末	増 減
総資産	5,072	5,586	+513
流動資産	3,456	3,945	+488
固定資産	1,616	1,641	+25
負債	2,193	2,532	+339
純資産	2,879	3,054	+174

15

次に2010年11月末の連結バランスシートのご説明をさせていただきます。

2010年8月末との比較では、  
流動資産が488億円増加し、固定資産が25億円増加した結果、  
全体の総資産は513億円増加して5,586億円となりました。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

## 【連結】B/Sのポイント（2010年8月末比較）

**現金・預金及び有価証券の増加 +123億円（2,019億円 ⇒ 2,143億円）**

【国内ユニクロ事業】 営業キャッシュ・フローの増加によるもの

**たな卸資産の増加 +63億円（740億円 ⇒ 803億円）**

【国内ユニクロ事業】 11月末残高 550億円 （前年同期末比）+29億円  
店舗数増・大型化による増加など

**有形固定資産の増加 +10億円（501億円 ⇒ 511億円）**

【海外ユニクロ事業】 出店の進展によるもの

**為替予約勘定（負債）の減少 ▲78億円（582億円 ⇒ 503億円）**

【国内ユニクロ事業】 ヘッジ会計を適用していることから損益への影響は無し

まず、流動資産ですが、現預金及び有価証券の合計額は2,143億円と、前期末比で123億円増加いたしました。これは、国内ユニクロ事業の営業キャッシュ・フローの増加によるものです。

たな卸資産は800億円と、前期末比では59億円増加しております。国内ユニクロ事業の11月末の在庫は550億円と前年同期に比べて29億円増加しております。これは、店舗数が増えたことや店舗の大型化に伴う影響がその主なものとなっております。

有形固定資産は、前期末比で10億円増加しております。これは、海外ユニクロにおいて出店が順調に進展していることに伴うものです。

為替予約勘定はこの四半期末では負債側で503億円と、前期末比で78億円減少しております。これは国内ユニクロ事業において為替変動リスクを回避するために為替予約を実行していることに伴うもので、ヘッジ会計を適用していることから損益への影響はございません。

## 【連結】2011年8月期 業績予想

売上高▲100億円、売上総利益▲70億円  
販管費▲70億円、営業利益は変更なし

単位：億円

	2010年8月期 通期実績	2011年8月期 期初予想		2011年8月期 修正予想		
		(10/8時点)	前期比	(1/13時点)	前期比	期初予想比
売上高 (売上比)	8,148 100.0%	8,560 100.0%	+5.1%	8,460 100.0%	+3.8%	▲1.2%
売上総利益 (売上比)	4,208 51.7%	4,400 51.4%	+4.5% ▲0.3p	4,330 51.2%	+2.9% ▲0.5p	▲1.6% ▲0.2p
販管費 (売上比)	2,885 35.4%	3,265 38.1%	+13.2% +2.7p	3,195 37.8%	+10.7% +2.4p	▲2.1% ▲0.3p
営業利益 (売上比)	1,323 16.2%	1,135 13.3%	▲14.3% ▲2.9p	1,135 13.4%	▲14.3% ▲2.8p	+0.0% +0.1p
経常利益 (売上比)	1,237 15.2%	1,085 12.7%	▲12.3% ▲2.5p	1,085 12.8%	▲12.3% ▲2.4p	+0.0% +0.1p
当期純利益 (売上比)	616 7.6%	510 6.0%	▲17.3% ▲1.6p	510 6.0%	▲17.3% ▲1.6p	+0.0% +0.0p

17

ここからは、2011年8月期の業績予想についてご説明します。

通期の連結売上高は、期初予想の8,560億円から8,460億円へ、100億円減額修正いたします。

また、売上総利益は期初予想の51.4%から51.2%へ0.2ポイント修正いたします。これに伴い、売上総利益は期初予想の4,400億円から4,330億円へ70億円減額修正いたしました。

販管費は70億円減額修正できる見込みのため、この結果、営業利益については期初予想の1,135億円を達成する予想です。

なお下期の営業利益は420億円と、前年比で29.3%の増益に転じる見込みです。

## 【国内ユニクロ事業】業績予想の前提

	2010年8月期	2011年8月期予想(旧基準※)			2011年8月期予想(新基準)		
	実績(旧基準)	期初予想	修正予想	前期比	期初予想	修正予想	前期比
売上高	6,151 億円				6,280 億円	6,180 億円	+0.5%
既存店前年比(通期) (ユニクロのみ)	+4.7%				▲4.7%	▲5.7%	▲10.4p
上期	+13.1%				▲9.8%	▲11.4%	▲24.5p
下期	▲6.4%				+3.0%	+3.0%	+9.4p
売上総利益率(通期)	49.2%	46.0%	45.6%	▲3.6p	49.0%	48.6%	▲0.6p
上期	50.4%	46.2%	46.1%	▲4.3p	49.0%	48.9%	▲1.5p
下期	47.5%	45.8%	45.1%	▲2.4p	48.9%	48.2%	+0.7p
販管費比率(通期)	28.4%	29.2%	28.6%	+0.2p	32.2%	31.6%	+3.2p
上期	25.2%	27.5%	26.9%	+1.7p	30.4%	29.7%	+4.5p
下期	33.3%	31.4%	30.7%	▲2.6p	34.5%	33.8%	+0.5p

※ 新基準:従来、原価算入していた商品倉庫～店舗間の運送費及び倉庫料を2011年8月期より販管費算入へと変更

国内ユニクロ事業の業績予想の前提につきましてこちらのスライドに示しております。

詳しくは、次のスライドでご説明いたします。

### ○ 上期の業績予想修正のポイント

- ・ 売上高▲100億円減額修正  
既存店売上高 期初予想 ▲9.8% ⇒ ▲11.4%へ修正
- ・ 売上総利益率 期初予想 46.2% ⇒ 46.1%へと修正(▲0.1p)
- ・ 販管費は期初予想に比べ50億円削減の見込み
- ・ 営業利益660億円(前年同期比▲28.6%減)達成の見込み

### ○ 下期の業績予想修正のポイント

- ・ 売上高 変更なし(既存店売上高 +3.0%を予想)
- ・ 売上総利益率 期初予想 45.8% ⇒ 45.1%へ修正(▲0.7p)  
12月売上の下ぶれの影響で冬物、春物の値引率拡大を予想
- ・ 販管費は期初予想に比べ20億円削減の見込み
- ・ 下期の営業利益は395億円(前年比12.3%増)の予想

⇒通期の営業利益は期初予想から変更なし

19

まず、上期の既存店増収率については、期初予想の9.8%減収から11.4%減収へと修正しております。

これは、12月の売上高が計画を下ぶれたことから第2四半期の売上高予想を修正したためです。この結果、上期の売上高は第1四半期の上ぶれ分を含み、期初予想に比べて100億円減額修正となっております。

次に、上期の売上総利益率ですが、期初予想の46.2%から46.1%へと0.1ポイント修正しております。

なお、上期の販管費につきましては、上期全体で期初予想に比べて50億円削減できることを見込んでおります。この結果、上期の営業利益は660億円、前年同期比28.6%減益と期初予想通りで変更ございません。

下期の業績予想につきましては、既存店売上高は前年比プラス3.0%と期初予想に比べて変更ございません。下期から既存店売上高が前年比でプラスに転じる要因としては、昨年の下期は特に3月・4月が二桁減収に陥り、下期全体では6.3%の減収となったこと、品番数を絞り込んでコア商品を強化した商品戦略、マーケティング戦略の効果が出てくることが見込まれるためです。

売上総利益率は期初予想の45.8%から45.1%と0.7ポイント引下げ、一方で、販管費は期初予想に比べて20億円の削減を見込んでおります。下期の経費削減効果は、上期に比べると金額としては減少いたしますが、これは下期の既存店売上高が増収に転じることを見込んでいるためです。

以上の結果、下期の国内ユニクロ事業の営業利益は395億円と、前年比で12.3%増と増益に転じる見込みです。

**通期業績予想**
**売上高:6,180億円(前期比+0.5%)**
**営業利益:1,055億円(前期比▲17.4%)**

単位: 億円

	2010年8月期	2011年8月期		2011年8月期		
	通期実績	期初予想 (10/8時点)	前期比	修正予想 (1/13時点)	前期比	期初予想比
<b>売上高</b> (売上比)	6,151 100.0%	<b>6,280</b> 100.0%	+2.1%	<b>6,180</b> 100.0%	+0.5%	<b>▲1.6%</b>
<b>売上総利益</b> (売上比)	3,026 49.2%	<b>3,075</b> 49.0%	+1.6% (▲0.2p)	<b>3,005</b> 48.6%	<b>▲0.7%</b> (▲0.6p)	<b>▲2.3%</b> (▲0.4p)
<b>販管費</b> (売上比)	1,749 28.4%	<b>2,020</b> 32.2%	+15.5% (+3.8p)	<b>1,950</b> 31.6%	+11.5% (+3.2p)	<b>▲3.5%</b> (▲0.6p)
<b>営業利益</b> (売上比)	1,277 20.8%	<b>1,055</b> 16.8%	<b>▲17.4%</b> (▲4.0p)	<b>1,055</b> 17.1%	<b>▲17.4%</b> (▲3.7p)	+0.0% (+0.3p)

※ 2010年8月期実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

以上の結果、2011年8月期通期の国内ユニクロ事業の売上高は100億円減額修正して6,180億円、前年比0.5%増を見込んでおります。営業利益は期初予想通り1,055億円、前期比17.4%減を見込んでおります。

国内ユニクロ事業 : 売上高を減額修正  
 海外ユニクロ事業 : 変更なし  
 グローバルブランド事業 : 変更なし

単位: 億円

		2010年8月期		2011年8月期		2011年8月期	
		通期実績	期初予想 (10/8時点)	前期比	修正予想 (1/13時点)	前期比	期初予想比
国内ユニクロ事業	売上高	6,151	6,280	+2.1%	6,180	+0.5%	▲1.6%
	営業損益 (売上比)	1,277 20.8%	1,055 16.8%	▲17.4% ▲4.0p	1,055 17.1%	▲17.4% ▲3.7p	+0.0% +0.3p
海外ユニクロ事業	売上高	727	1,000	+37.4%	1,000	+37.4%	+0.0%
	営業損益 (売上比)	63 8.7%	85 8.5%	+33.5% ▲0.2p	85 8.5%	+33.5% ▲0.2p	+0.0% +0.0p
グローバルブランド事業	売上高	1,252	1,250	▲0.2%	1,250	▲0.2%	+0.0%
	営業損益 (売上比)	78 6.3%	85 6.8%	+8.3% +0.5p	85 6.8%	+8.3% +0.5p	+0.0% +0.0p

※ 2010年8月期実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

グループ事業別の売上高、営業利益はご覧のスライドの通りです。

海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業については売上高、営業利益の予想数値の変更はございません。

最後に、2011年8月期の一株当たり配当金は中間配当で85円、  
 期末配当で85円、年間では170円を予想しており、  
 こちらは期初予想から変更はございません。

以上で私からの説明を終わります。

ありがとうございました。

## 連結対象会社別出退店 実績・予想

【単位:店舗】	10年8月	2011年8月期							
		1Q実績(2010/11末)				通期 予想(2011/8末)			
		期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減
<b>ユニクロ事業合計</b>	<b>944</b>	<b>37</b>	<b>10</b>	<b>+27</b>	<b>971</b>	<b>108</b>	<b>28</b>	<b>+80</b>	<b>1,024</b>
<b>国内ユニクロ事業:</b>	<b>808</b>	<b>23</b>	<b>8</b>	<b>+15</b>	<b>823</b>	<b>60</b>	<b>24</b>	<b>+36</b>	<b>844</b>
直営店	788	23	8	+15	803	60	24	+36	824
大型店	102	9	0	+9	111	30	0	+30	132
標準店等	686	14	8	+6	692	30	24	+6	692
FC	20	0	0	+0	20	0	0	0	20
<b>海外ユニクロ事業:</b>	<b>136</b>	<b>14</b>	<b>2</b>	<b>+12</b>	<b>148</b>	<b>48</b>	<b>4</b>	<b>+44</b>	<b>180</b>
中国(除く香港)	54	5	0	+5	59	23	1	+22	76
香港	13	1	1	+0	13	3	1	+2	15
台湾	-	1	0	1	1	1	0	+1	1
韓国	48	4	0	+4	52	14	0	+14	62
シンガポール	3	0	0	+0	3	2	0	+2	5
マレーシア	-	1	0	1	1	1	0	+1	1
英国	14	1	1	0	14	2	2	0	14
米国	1	0	0	0	1	0	0	0	1
フランス	2	0	0	+0	2	0	0	0	2
ロシア	1	1	0	+1	2	2	0	+2	3
<b>靴事業</b>	<b>90</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>+0</b>	<b>90</b>	<b>0</b>	<b>90</b>	<b>▲90</b>	<b>0</b>
<b>ジーユー事業</b>	<b>115</b>	<b>15</b>	<b>1</b>	<b>+14</b>	<b>129</b>	<b>40</b>	<b>3</b>	<b>+37</b>	<b>152</b>
<b>キャビン事業</b>	<b>197</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>▲3</b>	<b>194</b>	<b>0</b>	<b>197</b>	<b>▲197</b>	<b>0</b>
<b>セオリー事業※</b>	<b>326</b>	<b>17</b>	<b>4</b>	<b>+13</b>	<b>339</b>	<b>83</b>	<b>10</b>	<b>+73</b>	<b>399</b>
<b>コントワー・デ・コトニエ事業※</b>	<b>371</b>	<b>7</b>	<b>1</b>	<b>+6</b>	<b>377</b>	<b>51</b>	<b>6</b>	<b>+45</b>	<b>416</b>
<b>プリンセス・タム・タム事業※</b>	<b>160</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>▲2</b>	<b>158</b>	<b>2</b>	<b>6</b>	<b>▲4</b>	<b>156</b>
<b>総 合 計</b>	<b>2,203</b>	<b>76</b>	<b>21</b>	<b>+55</b>	<b>2,258</b>	<b>284</b>	<b>340</b>	<b>▲56</b>	<b>2,147</b>

※ FC店含む

キャビン事業は第2四半期に194店舗を閉店する予定。業態転換店舗は、セオリー事業のPLST店舗に22店舗、コントワー・デ・コトニエ8店舗を予定

## 【連結】2011年8月期 中間業績予想

単位: 億円

	2010年8月期 中間実績	2011年8月期 中間		2011年8月期 中間		
		期初予想 (10/8時点)	前年同期比	修正予想 (1/13時点)	前年同期比	期初予想比
<b>売上高</b> (売上比)	4,709 100.0%	<b>4,730</b> 100.0%	+0.4%	<b>4,630</b> 100.0%	▲1.7%	▲2.1%
<b>売上総利益</b> (売上比)	2,463 52.3%	<b>2,415</b> 51.1%	▲2.0% (▲1.2p)	<b>2,365</b> 51.1%	▲4.0% (▲1.2p)	▲2.1% (+0.0p)
<b>販管費</b> (売上比)	1,464 31.1%	<b>1,700</b> 35.9%	+16.1% (+4.8p)	<b>1,650</b> 35.6%	+12.7% (+4.5p)	▲2.9% (▲0.3p)
<b>営業利益</b> (売上比)	998 21.2%	<b>715</b> 15.1%	▲28.4% (▲6.1p)	<b>715</b> 15.4%	▲28.4% (▲5.8p)	+0.0% (+0.3p)
<b>経常利益</b> (売上比)	965 20.5%	<b>690</b> 14.6%	▲28.5% (▲5.9p)	<b>690</b> 14.9%	▲28.5% (▲5.6p)	+0.0% (+0.3p)
<b>当期利益</b> (売上比)	553 11.8%	<b>300</b> 6.3%	▲45.8% (▲5.4p)	<b>300</b> 6.5%	▲45.8% (▲5.3p)	+0.0% (+0.2p)

※ 2010年8月期実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

単位：億円

	2010年8月期	2011年8月期中間		2011年8月期中間		
	中間実績	期初予想 (10/8時点)	前年同期比	修正予想 (1/13時点)	前年同期比	期初予想比
<b>売上高</b> (売上比)	3,669 100.0%	3,540 100.0%	▲3.5%	3,440 100.0%	▲6.2%	▲2.8%
<b>売上総利益</b> (売上比)	1,847 50.4%	1,735 49.0%	▲6.1% ▲1.3p	1,685 48.9%	▲8.8% ▲1.5p	▲2.9% ▲0.1p
<b>販管費</b> (売上比)	923 25.2%	1,075 30.4%	+16.4% +5.2p	1,025 29.7%	+11.0% +4.5p	▲4.7% ▲0.7p
<b>営業利益</b> (売上比)	924 25.2%	660 18.6%	▲28.6% ▲6.5p	660 19.2%	▲28.6% ▲6.0p	+0.0% +0.6p

※ 2010年8月期実績も新カテゴリーに組替した数値を表示

適用為替レート

単位：円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2011年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)	83.1	111.2	130.8	12.3	7.2
2010年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)	89.5	132.4	146.2	13.4	7.6
2011年8月期 通期予想レート(10/8時点)	85.0	110.0	130.0	13.0	8.0
2010年8月期 通期実績(12ヶ月平均)	89.8	122.1	140.2	13.2	7.7

設備投資 減価償却費 のれん償却額

単位：億円

	設備投資	減価償却費	のれん償却額
2011年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	119	34	16
2010年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	73	27	18
2011年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	280	150	70
2010年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	280	122	75

## グループ事業：各カテゴリーに含まれる事業

2010年8月期まで

2011年8月期以降

2010年8月期まで		2011年8月期以降	
	含まれる事業		含まれる事業
国内ユニクロ事業	日本で展開するユニクロ事業	国内ユニクロ事業	日本で展開するユニクロ事業 靴事業★
海外ユニクロ事業	海外で展開するユニクロ事業	海外ユニクロ事業	海外で展開するユニクロ事業
国内関連事業	ジーユー事業	グローバルブランド事業	セオリー事業
	靴事業		コントワー・デ・コトニエ事業
	キャビン事業		プリンセス タム・タム事業
セオリー事業	ジーユー事業★		
グローバルブランド事業	コントワー・デ・コトニエ事業		
	プリンセス タム・タム事業		

※ ㈱キャビンは2010年9月1日よりリンク・セオリー・ジャパンに合併。2011年8月期以降におけるキャビン事業の業績は、グローバルブランド事業に含めております。

※ 靴事業は2010年4月1日より㈱ユニクロに合併

★ カテゴリーを変更した事業